

# 岳連 ニュース

# 宝 永

URL: <http://www.shizuokam.com>

(一社)静岡県山岳・スポーツライミング連盟

〒422-8076

静岡市駿河区八幡3-1-17

TEL (FAX) 054-288-7512

編集発行/総務委員会

令和4年3月7日発行

第38号



## 藤田(浜松日体) 男子 鈴木(富士) 女子 優勝

竜爪山岳競技会が令和3年12月12日(日)に静岡市の竜爪山を会場に実施された。

元々この大会は、国体山岳競技の縦走の練習会として始められた。しかし、平成20年の大分国体より山岳競技から縦走が廃止となったが、高校総体県予選の規定重量(男子21kg、女子17kg)に合わせて県内の高校登山部員の体力を競う大会として継続されている。

新型コロナウイルス感染症対策として、受付では出場選手、引率顧問の健康調査票の提出や役員

部の10時20分、高校男子の部及び一般男子の部は10時30分に号砲とともに一斉にスタートした。気温は更に上昇し選手達を苦しめた。途中棄権した選手は数名いたものの、トレーニングの成果が実り薬師岳山頂に次々とゴールした。上位の結果は以下の通りである。

(鈴木重幸)

## 永嶋美智華(東益津中)初優勝 ボルダリングユース日本選手権

日本山岳・スポーツクライミング協会主催の第7回ボルダリングユース日本選手権倉吉大会は、鳥取県倉吉体育文化会館で12月18日、19日に行われました。

女子ユースBで永嶋美智華(焼津東益津中学3年)選手が初めての優勝を飾りました。18日の予



選は40人で争われ、8課題のうち7完登8乙の2位で翌日の決勝に駒を進めました。19日の決勝は、3課題を6名で争われ、3完登が3名出るなどの

### 高校の部

- |      |            |        |
|------|------------|--------|
| 1位   | 藤田光也(浜松日体) | 67分06秒 |
| 男子2位 | 梅田修平(浜松日体) | 67分07秒 |
| 3位   | 盆子と樹(沼津東)  | 70分07秒 |
| 1位   | 鈴木実祐(富士)   | 75分53秒 |
| 女子2位 | 内藤ふく(浜松日体) | 76分42秒 |
| 3位   | 前田理名(浜松日体) | 82分26秒 |

### 一般男子の部

- |    |      |         |
|----|------|---------|
| 1位 | 井口智博 | 77分07秒  |
| 2位 | 鈴木和也 | 104分16秒 |

### 一般女子の部

- |    |       |        |
|----|-------|--------|
| 1位 | 福島美由子 | 89分17秒 |
|----|-------|--------|

### 学校対抗の部

- |    |      |
|----|------|
| 1位 | 浜松日体 |
| 2位 | 沼津東  |
| 3位 | 藤枝東  |

- |    |        |           |
|----|--------|-----------|
| 1位 | 永嶋 美智華 | 静岡県山岳SC連盟 |
| 2位 | 関川 愛音  | 八戸市立湊中学校  |
| 3位 | 長谷川 颯香 | 東京都山岳連盟   |
| 4位 | 武石 初音  | 埼玉県山岳SC連盟 |
| 5位 | 山 真奈実  | 三重県山岳SC連盟 |
| 6位 | 河島 藍   | 岡山県山岳SC連盟 |

接戦の中で、最終課題を1トライで完登、アテンプト数の差で予選1位の選手を上回りました。永嶋選手はユースCの時代から毎年決勝に進出するなど実績を残してきましたが、今大会の結果でユース日本代表にも追加招集が決まり、今後ともさらなる活躍が期待されます。(諸戸 明)

## 鈴木音(東海大翔洋)初優勝

## 全国高校選抜SC大会

第12回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会が、12月25、26日の二日間、埼玉県加須市・加須市民体育館で開催された。昨年度開催予定であった第11回大会は、新型コロナウイルスの影響により中止となったため、2年ぶりの開催となった。

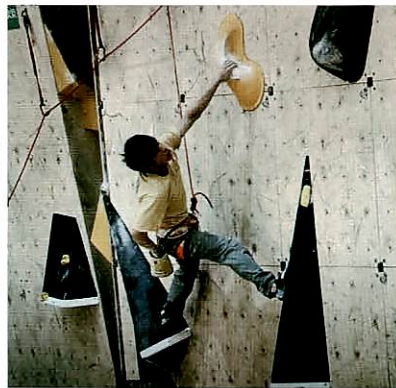
12月下旬は、全国的に感染者数が減少傾向にあった時期ではあったが、その中でも感染対策を十分行っていたうえでの実施となった。学校対抗が中止されたため、例年よりも出場選手数が減少した。観戦者も制限され、選手に対して引率1名のみ入場が許可された。選手には大会2週間前からの検温とPCR検査、引率者も検温と会場での簡易PCR



検査が義務づけられた。幸いなことに関係者から感染者が出ることもなく、無事開催された。

静岡県からは、男子鈴木音生(東海大翔洋二年)、池田鋼史(東海大翔洋三年)、鈴木大翔(藤枝西一年)、女子、新木結衣(浜松日体一年)、中里溪夏(三島北二年)の五名が出場した。鈴木音生、池田、中里は、昨年度も出場予定であったため、念願の出場である。予選はフラッシング方式の2ルート、それぞれのルートの順位点の総計で順位が決定する。今大会では、これも感染対策のため、準決勝が行われず、男女それぞれ予選の上位26名が決勝に進出する形となった。

予選のルートは男女ともに左右に移動する動きが多く、全体的に持久力が要求される課題であった。ホールド自体には悪いものはそれほどな



く、途中大胆な動きが必要な部分があるというような構成であった。

男子は、鈴木音生が2ルートともに完登し1位で予選を通過したほか、鈴木大翔20位、池田22位と、全員が決勝に進出した。女子は中里が34位、新木が68位と、ともに決勝を逃した。

決勝は2つの壁をつないだ長いルート。予選同様、持久力が求められる課題であった。男子は中盤、壁を渡りながら横に移動するトラバースが長く設定され、そこを抜けた先は、遠くて悪いホールドを大きな動きで取りに行く必要があった。トラバース中のレストポイントでいかに体力を温存できるかが一つの鍵であった。池田はそのトラバース

スを抜けた場所でもフォーム、20位、鈴木大翔もほぼ同高度で次のホールドに届かずフォール、15位となった。両選手とも、予選よりも順位を上げて決勝終了となった。予選1位通過である鈴木音生は、終始危なげない登りで高度を上げ、最終ホールド2手前でフォール。同高度の選手とのタイム差で、見事1位、優勝に輝いた。

静岡県勢としては、ここ数年男女ともに予選敗退が続いていたため、男子全員が決勝進出したの

みならず、優勝まで果たしたことは久方ぶりの快挙といえる。女子も、決勝に残ることはできなかったとはいえ、競技者全体の競技力が向上している中で、よく健闘した。男女ともに次の世代が着実に育ってきており、来年度以降の活躍が楽しみである。

新型コロナウイルスの先行きはまだ不透明であるが、これが早期に収束し、来年度には従来通りの活動ができるようになることを切に願う。

(馬淵 剛)

## 地方岳連の振興推進PT設置

## JMSCA全国理事長会議

2月13日、令和3年度の全国理事長会議が対面式とオンラインのハイブリットにて開催された。当初は対面を希望していた出席者もコロナ感染の急拡大の影響で、ほとんどの人がオンラインとなり73名の参加があった。会議に先立ち丸会長から、JMSCAの未来を考え活発な意見をいただきたいと話し、次の点を強調した。

共済会が推進している新しい山岳保険が24年4月から始まります。所属団体の支援のためのプロジェクトを立ち上げ、亀山副会長の陣頭指揮のもと進め方を検討していきます。山岳スキー競技が冬季五輪の正式種目となり、26年のミラノ・コルチナダンペッツォ大会での開催が決まりました。競技の普及、選手育成、強化を最優先に進めていくと

挨拶があった。

上期の報告では、東京五輪において、女子の部で銀、銅メダルに輝いた。目標には届かなかったが、初めて臨んだ大会の結果としては、喜ばしいものである。JMSCAの一層の改革、発展を期した中期計画は始まったばかりだが目標にはるか遠い状況にあると報告があった。

加盟団体振興推進プロジェクトチーム設置要綱を、加盟団体及びJMSCAの登山並びにSCの振興を図ることを目的として制定した。

その内容は、加盟団体の人的、財政的現状の把握、希望する支援、振興対策などの検討、スポーツクライミング競技会の運営に関する改善策の検討、加盟団体とJMSCAの良好なコミュニケーション体制と信頼関係を確率し、振興策の実施に向けた方途を検討する等が業務である。

私達、地方岳連は中央のこの動きを歓迎し、期待していきたい。

(木ノ内高嘉)

# 山岳レスキュー講習会(初級)

## ファーストエイド 遭難事例など学ぶ

令和3年度山岳レスキュー講習会(初級)

山岳レスキュー講習会(初級)がコロナ感染対策を講じながら1月15日静岡労働政会館にて開催された。

岳連の木ノ内会長からの挨拶があり、「山のリスクマネジメント」、そして小林指導員の講義、

山での「遭難」とは、なぜ遭難するのでしょ

山岳遭難が増えている背景は、普段の自分の体を知っておくこと、登山で消費するエネルギー、登山計画書を作る意味、登山中アクシデントが発生した時(負傷者有)の基本的な流れ等説明があり、また、救急セットとして、



手身近な物でも、あった便利なグッズなど紹介され、休憩時間に手にとつて参考にしていました。

続いて大石指導員からファーストエイド、身近な傷病の基本として、登山中の外傷や、体調異変の多くは不慣れた場所が発生します。限られた人数、装備、資材を用いてなるべく早く傷病者の手当が出来るように日頃から知識、技術を学んでおくことが大切と考えます。

①ファーストエイドの目的  
②初期対応「C&SABCD」の概要  
③「C&SABCD」の大原則等、又傷病手当の基本、登山中の起こり得る主な外傷手当、など講義を受



け午前中終了しました。午後は弘明堂治療院佐藤先生のテーピングテープの講習を行い、足首のテープの貼り方、膝、腰、肩等、参加者がモデルとなつて貼ってもらい、貼った後の実感を体験してもらいました。



## 山岳会紹介

静岡踏岳会は昭和13年(1938)11月に、竜爪山に登るたびに顔を合わせていた、静岡同期の山登り愛好家の3人によって創立されました。その中の一人が長期にわたり県岳連の役員として重責を担い、かつ、当会の会長でもあった片山欣弥氏です。

発足後、会の活動が活気づいてきたところ

で、戦下となり、会の活動は中断、終戦となり3人を含めた会員が無事復員した。当時

は無い無い尽くしの社会で、休暇もないなかからの再開となりました

が、記録には地元の山だけではなく、北アルプス穂高周辺、後立山縦走、白馬岳、立山、剣岳から毛勝山など遠くの山に足を運んでおりました。

発足当初から男性会員のみの期間が半世

## 静岡踏岳会

会長 森 健次

紀以上に亘り続きましたが、現在では女性会員も入会し大いに活躍しています。活動は当初からの地元安倍奥の山々、周辺を囲む山や沢、南アルプスをはじめ日本全国の山々に四季を通じて会員のレベルに応じたオールラウンドな登山、ハイキングを行っています。

活動の目的は「会員相互の楽しく安全な登山と親睦を図ることを目的とする」と会則に記されており、登山を楽しむためには正しい登山の知識と技術を学び、積極的な登山の実践を旨とし、スポーツ登山に関する研究と知識の普及も行っています。

会のメンバーも昭和生まれから平成に世

交代代し、昭和のように厳しさとロマンを求める登山は薄れ、今風の山行に変わってきましたが常に安全第一で楽しい登山を心がけて実践しております。現在は20年から続くコロナウイルスの感染防止対策による不要不急の外出、集合、三密の回避などの措置により山行は中断状態です。過去10年間の主な山行  
縦走・積雪期を含む南、北、中央アルプス、安倍奥、白根南稜、八ヶ岳、県内各地、北海道、屋久島  
クライミング・沢登り・錫杖岳、槍ヶ岳、北鎌尾根、鷲頭山、城山、三つ峠、太刀岡山、小川山、立岩、城ヶ崎、北岳、谷川岳、西沢溪谷  
アイスクライミング・八ヶ岳、芦安、武川支流  
四季を通じて登山を楽しんでおります。

最後に県警山岳救助隊長の講話があり、実際に救助に駆け付けた場面、遭難現場までの時間がかかる事、ヘリ救助等、特にこれだけは覚えて『山頂と命の二択なら命を選択してください』と話されました。

参加団体8団体、個人会員2名、参加者29名、指導員7名、参加人数36名

(堀内 修)

## 第3回理事會

日時 令和3年11月29日(月) 18時30分～19時30分

会場 静岡県男女共同参画センター あざれあ

5階 第五会議室

出席者 理事 18名中17名

監事 2名中1名

理事 木ノ内高嘉、鈴木重幸、前川朝夫、滝田博之、堀内修、小林久二彦、望月喜久治、増田浩二、赤堀正、出利葉義次、大石幸男、鈴木修、鈴木雅春、岩堀圭司(代理)、内海廣治、加藤敏美、諸戸明

監事 塩澤寿雄

挨拶 木ノ内会長

新型コロナウイルス感染症も下火となり、色々な行事が進められる状況となった。

事業の実施には感染対策に留意してほしい。スポーツフェスが実施できたことに対し大井川地区の関係者にお礼を言いたい。また山岳4団体による南アルプス写真展には、20作品の出品いただき、関係者に感謝する。

議事 議長 木ノ内会長

1 報告事項

(1)各委員会の報告  
指導委員会

・山岳コーチ養成講習会は、講習2を11月28日実施した。

・主任検定員養成講習会に2名の受講希望があり、3月に埼玉県で実施。

競技委員会

・11月3日県高校クライミング競技大会が開催、県スポーツフェスティバル登山大会

・11月6日、7日と寸又峡で開催、沢口山コースに37名、前黒法師岳コースに12名の参加者により、深南部の紅葉を愉しんだ大会となった。

2 協議事項

(1)初級セルフレスキュー講習会(堀内理事)

・1月15日(土)に労政会館の会議室で開催。

(2)竜爪山岳競技会(鈴木副会長)

・12月12日(日)に開催。参加上限を男5名女5名と規模を縮小して実施。

木ノ内会長と前川副会長が出席予定。

(3)指導者研修会(内海理事)

・1月29日(土)実施、内容は、安全指導者研修

会の報告と「宮内佐季子」氏の講演会を行う。

(4)冬山登山講習会(滝田事務局長)

・2月5日、6日開催。

鈴木理事から高校生の冬山に関しては、講習会への参加や山頂を目指さない冬山山行は認めている。

(5)ボルダリング競技会(諸戸理事)

・2月19日(土)に開催。参加資格を設け、高いレベルを求めることと感染症対策で人数を絞ることとした。

・木ノ内会長から参加資格の周知が必要という意見があった。

(6)その他

## 第4回理事會

日時 令和4年1月17日(月) 18時30分～20時00分

会場 静岡県男女共同参画センター「あざれあ」

5階

出席者 理事 18名中16名

監事 2名中0名

理事 木ノ内高嘉、鈴木重幸、滝田博之、堀内修、小林久二彦、望月喜久治、増田浩二、出利葉義次、大石幸男、鈴木修、鈴木

・令和4年県岳連カレンダーの販売 現在10部程度残、販売を促す。

(鈴木雅春)

・日山協東海ブロック研修会は2月に岐阜県で実施予定、要項が届き次第送付する。

・全国高校総体登山大会で富士高校男子が優勝した件でSBSスポーツ奨励賞に連盟から推薦することとした。

・県自然保護課から「南アルプスを未来につなぐ会」への入会チラシの配布依頼があり、傘下の団体でも話をしていただき

(鈴木雅春)

雅春、中川済(岩堀代理)、内海廣治、加藤敏美、難波利行、諸戸明

挨拶 木ノ内高嘉会長

1月15日に実施された山岳レスキュー講習会(初級)の開催では各団体で声掛けをしていただき、多くの参加者があり感謝する。新型コロナウイルスのオミクロン株の感染拡大により、講習会などの開催是非を含め事業を審議していく。

1 報告事項

(1)指導・遭難対策委員会  
内海廣治委員長より説明

・「山岳レスキュー講習会(初級編)」が1月15日静岡県政会館会議室で行われ、29名の参加者があった。ファーストエイド、テーピング活用などの講義が行われた。

(2)競技委員会  
諸戸明競技委員長より説明

・12月25～26日に「第12回全国高等学校スポーツクライミング選手権大会」が埼玉県加須市民体育館で行われた。静岡県代表選手は男子3名、女子2名が出場し、男子の部では鈴木音生(東海大翔洋)が優勝した。

・1月10日に行われた「クライミングコンテスト」には男子10名、女子13名の参加があった。

2 事業計画

(1)指導・遭難対策委員会  
内海廣治委員長より説明

・1月29日に予定されていた「指導者講習会」はまん延防止等重点措置が適用される可能性があるため、5月に延期する。

・2月5～6日に予定している「第61回冬山講習

会・第59回登山指導者講習会」は6日(日)のみの日帰りで実施をする。

・2月17日に予定されている「雪山講習会」は現在22名の申込がある。まん延防止等重点措置の適用などがあれば中止とする。

(2)競技委員会  
諸戸明競技委員長より説明

・2月19日に予定されている「ボルダリング競技会」新型コロナウイルス感染症の感染状況をもとに実施の可否を判断する。

・「国体静岡県予選」が4月29日に開催予定である。東海ブロック予選の順位を決定する際、パリ大会の得点方式を適用する方向で検討中である。

その為、静岡県予選から同様の得点方式で実施することが望ましいと提案する。

3 その他

・「北部体育館内にクライミング場の設置・再開」の要望書

県内4団体連名であるが市岳連の動向を見て判断する。

(鈴木重幸)